

ふるさとの祭りと年中行事⑨

古川の里の年中行事

変貌する地域と伝統的行事

かがり火囲んで新年の宴

あらたまの東の空に、かすかな光明があらわれる頃、各地の神社は初詣での氏子たちでにぎわいます。古川地区の四社神社では、暗闇の境内に新年のかがり火がたかれ、産土の神に拝礼したあと、持ち寄った手料理をさかんに、火を囲んでささやかな酒宴が催されます。

この古川地区は、横芝町の中央部に位置して、付近をJR総武本線・国道一二六号線が通る重要な地で、近年は農村から住宅密集地へと変貌しつつあります。このため、住民の多くはサラリーマンなどの通勤者で、古くからの農家も兼業化が進んで、伝統的行事の維持・運営もむずかしくなっています。ここで、古川地区の年中行事を整理、主なものを紹介してみましよう。

- 正月：初詣（一日）・四社神社奉射（十一日）・女奉射（二十四日）
- 二月：浅間神社奉射（一日）・如意輪参り（十九日）
- 三月：彼岸経
- 五月：渋落とし（田植後の休日）
- 六月：宮なぎ（十四日）

八月：ふるさと祭り（上旬）

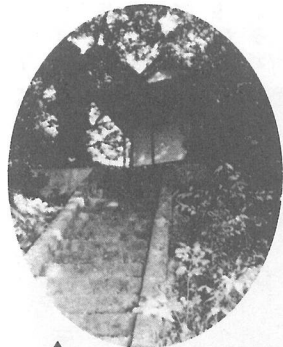
このほか、昔は村祈禱・虫送り・天神講・念仏・各種講中などがありました。

これらの行事の中で、春の予祝としての四社神社の奉射は、農家にとって大切な行事のひとつです。その儀式は一般的な内容ですが、直会（なおらい）のとき、少々変わった嗜好があります。酒宴に用いる酒を、若い衆が大鍋で「か

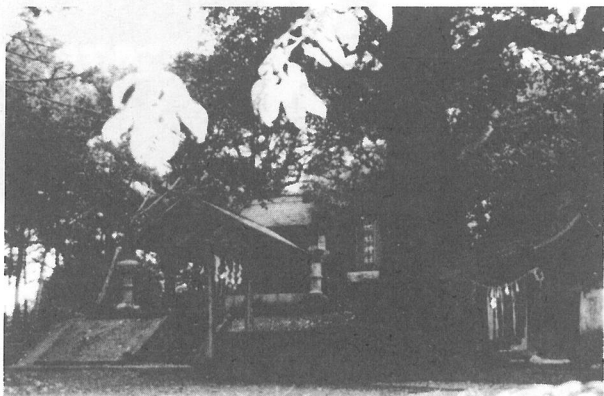
これらの中で、春の予祝としての四社神社の奉射は、農家にとって大切な行事のひとつです。その儀式は一般的な内容ですが、直会（なおらい）のとき、少々変わった嗜好があります。酒宴に用いる酒を、若い衆が大鍋で「か

ん」をつけるとき、男性のシンボルを形どった大根で鍋の酒をかくはんします。この所作には、夫婦和合・子孫繁栄への願いがこめられ、さらに五穀豊饒・郷中親睦を祈ったものと聞いています。

あふれる祭りのユーモア



▲中学校の北側 浅間神社



▲古川集落のほぼ中央にある四社神社

明日の地域づくりに向かって

こうしたユーモアあふれる伝統的行事も、次第に忘れ去られようとする昨今ですが、一方では、新住民を加えた新しい祭りが生まれつつあります。古川地区では、昭和49年以降、若者たちが中心となって「ふるさと祭り」が始められ、若連・囃子連の結成、「うかれ傘燈」の考案、「浮かれ太鼓」「古川音頭」の創作と振り付けなど、新旧住民が協力、地区内の「ふるさと」意識は大きく盛り上がりつつあります。この一年、横芝町の祭りと年中行事を調査してみても、若い自分自身の知らない伝統の重さや、行事を守り続けてきた先人のご苦労を知ることができました。この体験を大切にして、明日の地域づくりに努めたいものと、考え始めた今日このごろです。

（民俗行事調査員・伊藤善一）